



Concertport Live Series

ローナン・マギル

ピアノリサイタル

*Ronan
Magill*

ショパン

マズルカ集

OP.6, OP.7, OP.17, OP.24
OP.30, OP.33, OP.41, OP.50
"A EMILE GAILLARD"
"NOTRE TEMPS NO.2"

マギル

IN MEMORIAM TITANIC APRIL 1912

リスト

オーベルマンの谷

2023. 6/29 木

18:30 開演 18:00 開場

トーキョーコンサーツ・ラボ

東京都新宿区西早稲田2-3-18
東西線 早稲田駅 徒歩8分

ローナン・マギル氏は2023年7月に
ショパンのマズルカ全曲を収めた
CD収録を行なう予定です！

お問い合わせ 主催：オフィス・モデルン

e-mail: info@conpas.me

※ 曲目は変更になる場合がございます。
※ 新型コロナウイルス感染拡大の対策には細心の注意を致しますが、
やむを得ず開催内容が変更になる場合もあります。

後援 一般社団法人サポートミュージックソサエティ (SMS)

入場料・全席自由 4,000円

▼Livepocketで販売中

<https://t.livepocket.jp/e/klgsl>

▼コンパスに入会してお得に聴くこともできます。
裏面をご覧ください。



Ronan Magill

ローナン・マガイル (ピアノ)

英国シェフィールド生まれ。ローナン・マガイルは、幅広いレパートリー、とりわけロマン派や現代曲の演奏で、今や国際的に脚光を浴びるピアニストである。その輝かしいキャリアは1963年、世界的ヴァイオリニストのユーディ・メニューインが創立した音楽学校第一期生として迎えられたことに始まる。1969年には英国最大の音楽家ベンジャミン・ブリテンと出会い、“驚くべき音楽性と知性、それはまさに天から与えられた才能である！”と絶賛され、以後数年にわたり直接薫陶を受ける。1970～74年英国王立音楽大学に在学中、ピアノと作曲の主な賞すべてを獲得し、20歳で首席卒業。1974年ロンドンのウイグモア・ホールとサウスバンクでデビュー公演、その後ブリテンの勧めでパリへ移る。1974～76年コンセルヴァトワール・ヨーロッパでイヴォヌヌ・ルフェビュールに師事、最優秀賞(プレミエ・プリ)を受賞。一方、1975年ロンドンで「GLAA ヤング・ミュージシャン・アワード」を受賞、これをきっかけに数々のリサイタルと、BBCテレビでロンドン・フィルハーモニー管弦楽団との協演を果たす。以後しばらくパリに留まり、サル・ガヴオーやサル・プレイエルでリサイタル、ラジオやテレビに出演する傍ら、著名な演奏家や教育者のもとで研鑽を積み、ピエール・サンカン(1979～81 パリ)、ベネディッティ・ミケランジェリ(1979スイス)、ニキタ・マガロフ(1981～82 スイス)にも師事する。1985年にはポーランドにおける第1回ミロシュ・マギン国際ピアノコンクール優勝、また1994年には第3回英国コンテンポラリー・ピアノ・コンクールでも優勝を果たす。

1990年チェロの巨匠ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの祝賀コンサートでのコラボレート、1999年ロンドンのクイーン・エリザベスホールでのモーツァルトのピアノ協奏曲協演、また同年ドイツの初公演は“素晴らしいデビュー”(ライニツシュ・ポスト紙)と大好評を博す。続く2000年はカーネギーホールでもデビューを果たす。2001年BBCラジオにてベンジャミン・ブリテンとの関わりが紹介され、2004年ブリテンを特集したTV映画(BBC)にも参加。近年はロンドンのサウスバンクでのリサイタル、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団やフィルハーモニア管弦楽団との協演、BBCラジオ出演、オールドバラ、リッチフィールド、アボッツベリー、カンタベリーなどの音楽祭、レバノンのアル・バスタン・フェスティバルにも招かれるなど、活躍の場はイギリス国内やヨーロッパはもとより、中国、中東にも広がっている。初来日は2005年。以降、東京芸術劇場大ホール、横浜みなとみらい大ホールをはじめ、全国各地にて演奏し大好評を博している。バロックから現代音楽、自作自演までレパートリーは幅広く、その色彩豊かな音楽表現、美しい響き、情熱的な演奏で来日ごとに着実にファンを増やしている。スタインウェイ・アーティスト。

コンサートのサブスクリプションサービス「コンパス」

スマホを使って気軽にクラシックなどのコンサートに行くことができます。
月額定額制2,200円(初回登録料880円)

 **compas**

<https://compas.me/>

